

平成22年度事業成果報告書（長期優良住宅等推進環境整備事業）

事業分野 住替え・二地域居住を推進するための住宅の再生、流通の促進等を行なうモデル事業	
事業名 二地域居住支援・空き家バンク情報提供事業	事業主体名 越知川田舎暮らし推進協議会

1. 事業のあらまし

(1) 神河町の概要

神河町は、兵庫県のちょうど真ん中にあるハートの形をした町です。町の中央を、播但自動車道路、国道312号線、JR播但線が南北に縦断し、姫路から40分、神戸・阪神から1時間半圏内と都市部からも良好なアクセス環境にあります。

また播磨、但馬地域一帯の医療を担う神崎総合病院や、全町全域をくまなく走るコミュニティバス（一乗車当一律200円）など、安心して暮らせる環境、そして豊かな自然の中で子育て環境に優れた人情味あふれる町です。



【図1. 神河町位置図】

(2) 地域課題

高齢化・過疎化が進行し、一人暮らし高齢者世帯は約300世帯あり、年々1割ずつ増加し、これにつれ空き家も増加している。

一方、都市住民の田舎暮らし志向は高まっており、移住用の空き家を求める問い合わせが多くなっている。

そこで地域課題の解決策のひとつとして、都市住民の二地域居住・田舎暮らし支援の取組みを進め、地域への移住・交流を促進することにより、活力の維持・再生を図ろうとしている。

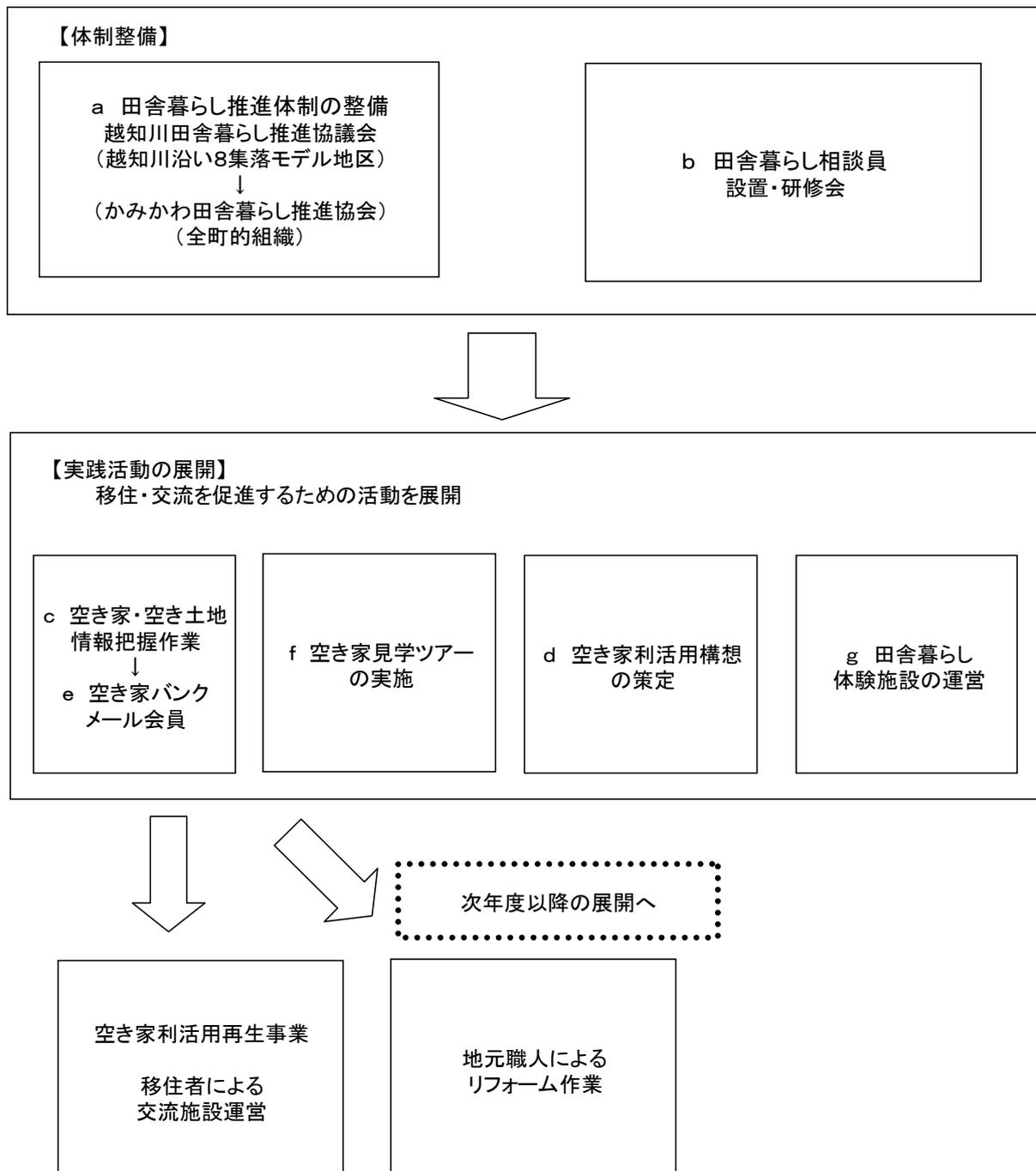
2. 活動内容

(1) 活動の概要と手順

①活動の概要

高齢化・過疎化により増加する空き家を「地域の宝」として捉え、都市住民の田舎暮らし志向の高まりと合わせて、移住・交流を推進することにより地域の活性化を図ろうとしている。

②活動の手順



(2) 活動内容

a 田舎暮らし推進体制の整備

①越知川田舎暮らし推進協議会の発足

平成21年度、越知川沿い8集落をモデル地区として指定し、8集落の地域代表、地域の大工・左官などの職人の組合、地域の不動産屋さん、金融機関などから構成される当協議会が発足した。この協議会の事務局は行政が担い、協議会も行政と連携しながら田舎暮らし支援の取組みを進めてきた。



②全町的組織への拡大



越知川田舎暮らし推進協議会の取組みを全町的に拡大するべく、当協議会の中の主要なメンバーに、他集落の田舎暮らし相談員、交流活動に取り組んでいる集落団体の代表者とともに協議会を拡大・再構築した。

この中ではこれまで越知川沿い8集落での取組みを全町的に進めるとともに、各集落や各団体で困っていること

などを拾い上げ、各団体相互の取組みを情報共有・連携させることにより、一体的かつ総合的な情報共有のもと、全町的な移住・交流の取組みを進めようと検討を進めている。

③開催内容：

平成22年11月～3月 計5回開催予定

第1回 かみかわ田舎暮らし推進協会（仮称）

日時：平成22年11月5日（金）午後7時～

場所：保健福祉センター2F 福祉講習室

1. 開会あいさつ（蘆田地域振興課長）
2. 出席者紹介
3. 議事
 - (1) かみかわ田舎暮らし推進協会（仮称）設立の趣旨について
 - (2) かみかわ田舎暮らし推進協会（仮称）規約（案）について
 - (3) 役員を選任について
 - (4) 今後の進め方について
 - (5) その他
4. 閉会あいさつ

【平成22年11月5日（金）第1回】

(1) かみかわ田舎暮らし推進協会（仮称）設立の趣旨

(2) かみかわ田舎暮らし推進協会（仮称）規約（案）について

(3) 役員を選任について

(4) 今後の進め方について

第2回 かみかわ田舎暮らし推進協会

日 時：平成22年12月6日（月）午後7時～
場 所：保健福祉センター2F 福祉講習室

1. 開会あいさつ
3. 議事
 - (1) 経過説明
 - (2) 各団体・各集落の活動報告（相互理解を深めよう!）
 - 各集落の地域サロンでの取り組み経過
 - 交流団体の現状報告
 - (3) その他（意見交換）
4. 閉会あいさつ

【平成22年12月6日（月）第2回】

④各団体・各集落の活動報告

【大畑】ログハウスが18程。つきあい困難

【岩屋】受入れについては関心と心配ある。

【山田】営農組合事業が活発。毎年4月末にりんご祭を開催。独自のライスセンター、ブランド米クルミガ礫コシヒカリ

【福本】11月には福本遺跡まつり、4月運動会と文化展。

【貝野】村の活動では高齢化が進み、実質的なメンバーが大変

【高朝田】移住者については、区事業等に協力的な方が望ましい。

【南小田】相談員がどこまで中に入れるかが問題。

【川上】移住の活動が活発になってきたら、どのように受入れをしていけばいいかが課題

【観光協会】ここが基点という目先で、町内を回り、色んな施設を見てもらいたい。

【新田ふるさと村】景気の低迷で客単価も減少で、更に厳しい。

【セルフビルド村】23戸の中で、一人住まい高齢者が非常に多い。10年先が心配。

【新野水車の会】3年目だが、もう少し頑張りたい。

【砥峰四季祭】課題は、子どもの減少。町を守るためには若者が入ってくるのが一番。

【吉富茶生産組合】木も古くなり人件費と高齢と、どうしようもない時期が来ている。

【桜華園】観光バスは平日、土日関係なしに入ってくるので人の手配に困る。

【中村ホテル委員会】田舎を全面的にアピールする催し物や企画

【根宇野ゆず生産組合】だんだん手放す人も増えて、組合としても困っている。

【宅建協会】コミュニケーションをより大切にしながら進めていくことが大事。

【土建組合神崎分会】これからは人材育成の確保が課題。

【千ヶ峰ふもとでふれあい・作畑区】世話する人が高齢になって維持できない

【役場】一人暮らし老人世帯が増え、今後も空き家が増える。

第2回目は、これまでそれぞれ別々にバラバラに進めてきた移住・交流の取り組みを報告しあうことにより、集落・団体の共通理解を進め、現状把握に努めた。

【平成23年2月1日（火）第3回開催分】

第3回 かみかわ田舎暮らし推進協会

日時：平成23年2月1日（火）午後7時～
場所：保健福祉センター2F 福祉講習室

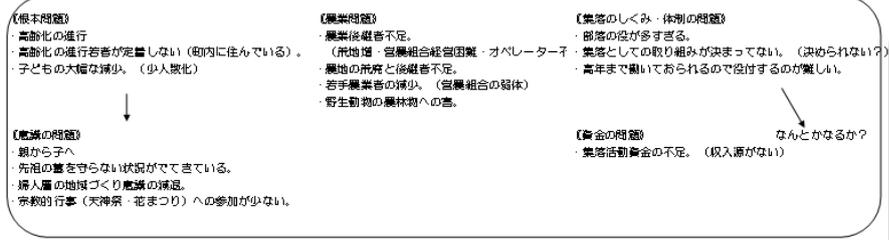
1. 開 会
2. 前回のふりかえり
3. 「かみかわ田舎暮らし推進協会」の意義について（再度）
4. 田舎暮らし、観光交流促進のためのPRパンフ・たたき台の説明
5. グループ討議
 - ・テーブルごとに話し合おう！
 - ・グループ発表
 - ・意見交換
 - ・ま と め
6. 閉 会

- 前回のふりかえり
- 「かみかわ田舎暮らし推進協会」の意義について（再確認）
- 田舎暮らし、観光交流促進のためのPRパンフ・たたき台の説明
- グループ討議
 - ・テーブルごとに話し合おう！
 - ・グループ発表
 - ・意見交換
 - ・ま と め



相談員グループ(多田・佐谷・浦上・小林・藤原・林)

集落の現状・問題点



「かみかわ協会」がやること

- 推進活動のスタートが切れてない。(集落としての) (「協会」⇒「活動づくり」集落へスムーズに)
- 固定化する空き家を組織したイベントにできるか? 自分が住むという思いでリフォームする。(多角的な空き家利用促進)
- 結婚しても別れが早いので困る。(兼業の併用)「婚活応援」
- 若者にもっと村の現状を伝えてもらいたい。
- 若い人(子育て中)が移住しやすい環境を伝える。(分農の場)
- 若者定着の環境づくり
- 農地の維持管理作業への協力。
- 都会の人達にもっと休耕地を利用できる体制作りをしては?
- 冷涼地域を主とした野菜作りなどで生活できる村を確立したい。(農地のアイデア)
- 古民家の空き家発生がまだない。
- 空き家と交流の接点は何か。

交流からみた課題

- 住民交流のキーマン(子ども?)が少ない。
- 移住者との交流が少ない。
- 行事が負担になる。
- ボランティア精神の減退。(若手層)
- 集落が閉りようにならない。
- 行事のマンネリ化。
- リーダーになる人材が少ないので困る。
- 入居者、都会型で地区非協力。
- 若い人との考えの違い。(交流を深め)

交流の推進 集落の改革のアイデア

- 新たな人とのきっかけづくりが大切
- 行事の改革(企画を工夫)
- 町の観光施策の主体と空き家の結び付け!
- 隣保⇒村へ イベントの拡大
- 組織することで人が集まる。(出ていった人)
- 伝統行事とイベントの参加率。
- 体験者の雇用(生)。
- お互いの体験ツアーの経験者を紹介する。(PR)

案をして多くを得られない

土建組合グループ(前川・浦上・田中・前川・安部・難波・井上)

概観・相乗ごと・現状

- 空き家のいたみ具合。何事にも早め、早めの対応をお願いする。
- 他町より田舎暮らしをするため、自家に入居された方が、従来住まれていた町の風情そのままに住まれてラブルがあった。
- 神崎分合と大河内分合では、気象が違うので再生講習会などはできない。
- 事業に対する協力が少ない。
- 田舎に立派な家があるのに嫁さんの都合で都会生活をしている。
- 親近、契約された方より仕事で増減してほしいとの要請もあった。
- 田舎接待の人のよさで、町の方より人の温かみがあると喜んでいただいた。
- 都合の方が田舎暮らしを希望に地元住民の理解が得られていない。

期待すること・貢献できること

- 若い世代にも田舎暮らしの良さを知ってもらえる機会を作っては?
- 協会のPRを住民にってもらいたい。
- 町の方が神河町を振り向くようメディアを使って宣伝してほしい。また、メディアが振り向くようPRしてほしい。
- 各町の組合でPRしてほしい。
- 空き家の周りの方に先に相談員の方から話をしてもらってほしい。
- 職人さんの仕事確保。
- 田舎暮らし相談員のPR。
- 田舎暮らしの体験を有名人をよんでやりたい。(田舎で泊まる?)

協会に対する課題

- 集落内で田舎暮らしの推進が住民や区民に充分に知れていないため、各集落内での会合等で節度内で周知させる。
- 協会がする事業がボランティアですまないように伝えてほしい。

外部の力を借りたいこと

- 協会活動を県全域に宣伝してほしい。

交流団体グループ(中島・藤原・高橋・山下・山名・藤原カ・岸田・生田)

現在の概観

- 【人員不足・高齢化】
 ・高齢化による限界集落
 ・高齢化によって耕作の後継者がいない。
 ・柚子畑の後継者がいない。
 ・ボランティアの応援がほしい。
 ・集落に子どもが居なく活気がない。
 ・人員不足。
 ・米園舎への初期。(人員)
 ・組合員の高齢化でこれからどうなるのか。
 ・集落内の各種事業実施に人手がなくて困っている。
 ・高齢者が多く若者が少ない。
 ・作業をするのに人手不足で大変。
 ・補給作業の高齢化。
 ・管理に手間がかかる。

- 【事業について】
 ・イベントの規模が大きくなりすぎた。
 ・人が多く来ていたけど、ゴミも増加している。
 ・交通量が多くなり、安全の確保が出来なくなってきている。
 ・説明が大変。
 ・文句が多い。
 ・利用者の要望が多い。
 ・柚子オーナー(今23組⇒30組ぐらいにしたい)
 ・自然を相手に、いつも(毎年)心配をしている。(りんごオーナー制のため)

- 【行政に対して】
 ・行政の奨励。
 ・行政の引継ぎができていない。
 ・かみかわの知名度が低い。

- 【資金面】
 ・赤字になっている。
 ・収入が少なく作業に力を入れられない。
 ・補助金がいっぱいであるか。
 ・補助金がなくなればどうなる?
 ・将来の負担しがい不明。

- 【区民・町民の参加】
 ・地元の協力が少なくなっている。
 ・町民の参加が少ない。
 ・区民が会への取り組みに積極的に参加してほしい。
 ・ボランティアとしての参加が薄薄に感じている。
 ・地元の人々が来しめないうようになっていく。
 ・町民の関心度。
 ・つきあいがわずらわしい。

今後の要望・協会に期待するところ

- 仏をつくって『魂』を入れてほしい。
- 町民の一体感をつくる。
- 連携をもつ。
- 一緒にやって取り組む。
- 入居者がある程度選ぶ。
- 子ども連れの入居が希望。
- 空き家が売れた後のフォローアップ。
- 目玉をつくる。
- サークルの紹介。
- 会員募集等(オーナー)もね。何かよい募集等あれば。
- 都市の来町の時、私共の方にも来てもらうようにしてほしい。
- 行政の補助。
- 行政の意識が低い。
- PRをもっと町民にする。
- 田舎の良さを伝える。
- 都市住民に来てもらう事で地元の情報発信ができると思っているが・・・。
- カクシ様に18戸が入居され、色々な事業に参加頂いている。

b 田舎暮らし相談員の設置・研修会の開催

① 田舎暮らし相談員の設置

町内39集落でそれぞれ田舎暮らし相談員を選任いただき、一定の研修のもと、各集落における空き家・空き土地の調査、行政への情報提供、移住者との相談などの責務を担ってもらっている。町内全集落において田舎暮らし相談員を選任してもらい、当協議会の相談員とともに研修会を開催した。



【田舎暮らし相談員研修会】

日 時:平成 23 年 1 月 13 日(木)19:00
～21:00

場 所:保健福祉センター 2 F 福祉
講習室

1. 開会あいさつ

2. 趣旨説明

3. 講演

「空き家を活かす地域づくり」

(中井都市研究室代表 中井豊先生)

- 《1. 空き家を活かす取組みは全国で始まっている。》
- 《2. 神河町の取組みはトップランナー》
- 《3. 空き家をもっともっと活かそう》
- 《4. 都市住民をこころよく受入れよう》
- 《これまでのまとめ》

4. 質疑



c 空き家・空き土地情報把握作業

神河町空き家バンク 各区調査数等一覧							
区名	平成21年度調査分			12月31日現在 情報公開分			H18～21以前 成約数
	報告数	調査数	返答数	賃貸 物件数	売買 物件数	H22年中 成約数	
野村	4	8	7	2	1		3
比延	1	3	3				
寺前	15	17	13	3	4	1	2
鍛冶	6	8	7	1	2	1	
大河	3	2	2				
上岩	1	5	5	3	2		1
高瀬田	2	1	1				
宮野	2	2	2				
南小田	4	6	6		2		1
上小田	3	6	4	1	2		2
川上	8	9	4		1		
大川原	5	6	6	3	1	1	1
本村	2	6	6		1		
赤田	1	1	1				
重行	2	4	4	1			
為信	3	4	3			1	
峠							
栗	4	5	5	1	1		
洲	2	2					
合計	134	193	169	35	46	12	26

※賃貸・売買物件数については、区調査以外からの情報もあり、返答数とは一致しません。
 ※賃貸・売買数は、平成20年以前の調査分もあり、情報公開分とは一致しません。

- ① 田舎暮らし相談員から報告のあった、各集落の空き家調査結果について整理。
- ② 民間コンサルタント会社との共同のもと、臨時職員により物件の所有者特定、意向調査把握作業。
- ③ 民間コンサルタント会社により、空き家の調査作業及び空き家の利活用方策について調査・構想策定。

d 空き家・空き土地調査と連動した地域づくり構想の策定

① 構想作業の目的

空き家・空き地バンクの取組み、及びそれに関連する田舎暮らしを総合的に進めていく取組みは、交流人口、定住人口を増やしていくというだけでなく、地域づくりの担い手を増やし、地域を強くする活動へとつないでいくことで、さらに強固な地域が形成されていくと考えられる。

そこで、地域内では作畑・新田集落で継続的な集落活性化の取組みが行われていることを参考に、越知川地域、さらには他のエリアにおいても地域が主体となった地域づくりの取組みに発展させるための方向性を示すこととする。

とくに越知川地域では、具体的に空家・空き地の取組みがどのように地域づくりと連動して展開していくかを示していくこととする。

② 地域づくり構想の内容

● 空き家・空き土地調査を通して見た神河町の特徴

- ・この数年間の空き家・空き土地バンク及び地域の各団体が連携したとりくみの推進により、空き家・空き土地の活用が周辺自治体に比して格段に進んでいる。
- ・特に、越知川流域の地域は、名水街道の活動の進められているように、風光明媚な地域であり、



伝統的形式の古民家が町内に多数残る(越知川地域)

また林業が盛んな地域でもあるため、伝統的な地元材料を活用した民家が景観にマッチしたかたちで立地し、集落を形成しており、空き家の今後の活用面でも利用度が高い。



伝統的形式の古民家が町内に多数残る（小河原川地域）

・越知川以外の地域においても、空き家・空き土地の活用は進められている。一方、地域が一体となった空き家・空き土地を活用した活動は緒に就いたばかりであり、地域の相談員さんの意識の差によるのか、空き家・空き土地の“出方”がまだらであり、今後空き家・空き土地の見方のマニュアル化等の作業を通して、空き家・空き土地の地域からの抽出を高めていくことが望まれる。

● 空き家、空き地を生かした地域づくり構想の提案

< 神河町全域 >

・各地域（流域・沿道・沿線）ごとの空き家・空き地活用の方針

◇ 越知川地域

・・・風光明媚で林業の地域らしい民家のたたずまいを生かした移住・交流を軸とし、地域の生活向上の観点からの空き家・空き土地の活用

◇ 猪篠川地域（R312沿道）

・・・町の南北を貫く中心軸の構成にふさわしく、神河町の活力向上をリードする住宅、店舗・事務所等を中心とした空き家・空き土地の活用

◇ 市川・犬見川地域（JR播但線沿線）

・・・町の行政・ターミナルの中心核や山あいの立地を生かし、地域の活性化をリードする空き家・空き土地の活用

◇ 小河原川地域

・・・町として東の越知川地域と対になる立地にあたり、流域として集落のまとまりを構成するような移住・交流、地域の生活向上の観点からの空き家・空き土地の活用

< 越知川地域 >

・空き家利用の想定を下表のように設定した。

	①住宅系	②コミュニティ施設系	③福祉施設系	④歴史・文化施設系	⑤観光・商業施設系
A. 個人	・個人住宅 ・別荘				
B. 企業・事業者	・社宅		・保養所 ・グループホーム	・ギャラリー	・民宿・旅館 ・店舗
C. 自治組織	・一時帰郷者用住宅	・集会所	・いきいきサロン	・郷土資料館	・観光案内所 (共同店舗等)
D. 行政		・コミュニティセンター ・行政サービス施設(出張所等)	・福祉施設(グループホーム等)	・歴史文化施設	・観光案内所

・これらに関して、越知川地域を構成する8集落について、それぞれに関して空き家活用の方向を検討した。8集落はそれぞれに、空き家・空き土地の状況が異なる上に、立地条件（町市街地中心に近い中村集落、越知川最上流に位置する新田地域とは約16km離れている）、施設の立地状況、歴史的自然的条件、取り組んでいる地域活性化のとりくみの違い等をふまえ、今後空き家・空き土地の活用を地域づくりとして取り組む方向を設定した。

e 空き家・空き土地バンクへの情報掲載・メール会員制度の設置

- ① 町の運営するサーバー上へ、空き家・空き土地バンクへの情報掲載
- ② 田舎暮らしメール会員用のホスティングサービス依頼・メルマガ運営（登録者数約 200 件）

【ホームページコンテンツ】

●物件を探そう！

神河町内の物件（空き家・空き土地・空き店舗・空き工場など）をご紹介します。

●田舎暮らし体験してみませんか？

空き家再生講習会など体験イベント、体験施設の紹介

●空き家等利活用再生事業

●町営住宅・特定公共賃貸住宅のご案内

●神河町ってどんな町？

●周辺情報のご紹介

●神河田舎暮らしの先輩

●神河田舎暮らしQ & A

●田舎暮らしリンク集

●メール会員募集

神河町に移住したい、住んでみたい人のために地元の物件の案内などを行っています。

神河町田舎暮らし情報

目次

物件を探そう! 神河町内の物件(空き家・空き土地・空き店舗・空き工場・町営住宅など)をご紹介します。	400 田舎暮らし体験してみませんか? 空き家再生講習会など体験イベント、体験施設の紹介
田舎暮らし臨時相談所を開設します。 楽農生活フェア 節分祭(1/29)で、田舎暮らし臨時相談所を開設します。みなさま、是非、お越しください。	110 空き家等利活用再生事業 神河町内の空き家・空き店舗などを改修・再生して、農家レストラン、農家民宿、農村カフェなどの交流事業や宿泊事業などをしようとする個人・法人に対して改修費の支援をします。
50 町営住宅・特定公共賃貸住宅のご案内	30 神河ってどんな町?
25 周辺情報のご紹介	20 神河田舎暮らしの先輩
15 神河田舎暮らしQ&A	5 田舎暮らしリンク集

e 空き家見学ツアーの開催

- ① 空き家バンクに掲載する物件のうち5件を見学して回るツアーを企画。都市住民向けにPR・参加者募集。
- ② 参加者数22名（大人21名、小人1名）
- ③ 見学物件5件中1件について商談中。



11/21(日)は兵庫の真ん中、神戸町へちよこっとお越しになりませんか? (雨天決行)

かみかわで田舎暮らし 空き家見学ツアー

集合 日時:平成22年11月21日(日) 9:00受付 9:10出発
集合場所:JR姫路駅南口 バスロータリー(下図を参照)

<p>①空き家(1037102) ●神戸町中村●6万5000円/月(賃)●敷地197.66㎡ 建物210.4㎡●町水道/下水完備●JR新野駅から約5kmバス1分●病院・スーパーまで約1km</p>	<p>②空き家(1025201) ●神戸町福本●価格応相談(売)(賃)●敷地641.22㎡建物143.61㎡●菜園有●町水道/下水完備●JR新野駅から約4kmバス9分●病院・スーパーまで約600m</p>	<p>③空き家(1003101) ●神戸町福本●1900万円(売)●敷地372.14㎡建物196.26㎡●菜園有●町水道/下水完備●JR新野駅から約4kmバス10分●病院・スーパーまで約3km</p>
<p>④空き家(2033105) ●神戸町新治●650万円(売)●敷地267.68㎡建物155.89㎡●菜園有●町水道/下水完備●JR寺前駅から約1kmバス2分●病院まで1.5km、スーパーまで約1km</p>	<p>⑤空き家(2056102) ●神戸町長谷●1150万円(売)●敷地354.24㎡建物84.67㎡●菜園有●施設内風呂水道/個別浄化槽●JR寺前駅から約10kmバス20分●病院まで10km、スーパーまで約3km</p>	

★当日は改修相談員・資金相談員も配置★

★姫路駅からバス送迎あり★

姫路駅中央出口(南側) バスロータリー 9:10出発 帰着予定 17:40(予定)

神戸の真ん中「神戸町」でちよこっと田舎暮らし体験

神戸町短期滞在施設のご案内

昨年度「空き家再生講習会」で多くのボランティアの皆様の手によって空き家が再生されました。この施設をリソース的な料金でご利用いただけるようになりました。皆様とんどご利用下さい!!

神戸町田舎暮らし情報 → <http://www.town.kamikawa.hyogo.jp/live/>

1. 滞在期間:3日以上1ヶ月未満の滞在を条件とします。
2. 利用資格:本施設の利用は、神戸町空き家バンク登録者に限りません。

f 体験施設の設置

- ① 短期滞在施設の設置。3日以上の上の滞在を最低条件とする短期賃貸契約で運営。
- ② 利用者数 8件16名（平成22年度中）
- ③ 雨漏り、温水器の修繕等、維持管理。

3. 活動効果

(1) 活動効果

空き家見学ツアー(参加者22名)、体験施設の運営(利用者数8件16名)などを開催し、神河町の田舎暮らしをPRすることにより、空き家バンクの物件13軒が成約(平成22年度中)。13世帯34名(平成22年度中。うち町内移動3世帯12名)が移住。

(2) 評価

移住者(週末滞在、半定住、定住全て)も出てきており、地域代表の田舎暮らし相談員からは、地域での受け入れ環境整備や雰囲気づくりが進んでいる、という声もある。また協議会の取組みを全町的に広げる活動も同時に進めており、各地域での理解が深まっている。

4. 今後の課題

(1) 空き家物件の掘り起こし

高齢化・過疎化の進行により、空き家はどんどん増加しつつあるものの「貸してもいい、売ってもいい」という空き家はなかなか出てこない。地域ぐるみの取組みで、空き家にしていないことを基本とするなど物件の掘り起こしを精力的に進めていきたい。

(2) 移住者と地元住民との融合

移住者が実際に出てきており、地元住民からは移住者(都市住民)が近隣に引っ越してくることに對する不安の声が出ているのも現実である。しかしこれは都市と農村だけに限ったことではなく、都市部においても同様であり、むしろ都市部における方が深刻であるかも知れない。このあたりは自然や人情味豊かな地域で暮らすことによる、移住者(都市住民)たち自身の変革効果もあり、さらに移住者により地元住民が刺激を受け変革していく効果といった、地の人(地元住民)と風の人(移住者)との移住交流による地域活性化の効果など、理解を深めてもらうような取組みが求められる。

5. 今後の展開

空き家政策を地域活力に結び付けていくためには、今後は空き家を「地域の宝」として地域活動・交流活動を広げる核として位置づけ、そしてこうした活動に内外からの力を取り込んでいくような展開を進めたい。

■ 団体概要・担当者名			
団体設立時期		平成21年3月	
代表者名		前川 光 義	
連絡先担当者名		真 弓 憲 吾	
連絡先	住所	〒679-3116	兵庫県神崎郡大河内町寺前6-4
	電話	0790-34-0185	
ホームページ		http://www.town.kamikawa.hyogo.jp/live/	